

# 日本 × 国際協力 = エチオピア × HAPPY ?

塚田 好美 (千葉県 公務員)

## ●エチオピアのHAPPYを見つけよう!!

これが、私のテーマだった。「日本×国際協力=エチオピア×HAPPY」つまり「日本の国際協力はエチオピアのHAPPYになっている」ことを証明する HAPPY。国際協力の現場で、自分の目で、エチオピアのHAPPYを見つけよう!!

## ●国際協力にも 作用・反作用の法則?!

エチオピアで日本の国際協力事業を進める専門家や青年海外協力隊・シニア海外ボランティア等から、たくさん話を聞いた。国際協力活動は、どのようなものなのか。なにを生み出しているのか。どんなHAPPYになっているのか。様々な答えをいただいた。

- 自分がこの年齢になって、それでも自分の知識や経験を必要としてくれている人がいる。勉強になった、改善された、助かった、と言ってもらえる。活躍することができる、そして、人から求められていることがうれしい。
- 現地の人が苦勞しているのを見て、自分のできることなら、助けてあげたい。それが、この活動のモチベーション。
- 自分も、世界も、変えるシゴト。自分も、世界も、変えられるんだ! よし、変えてやる!!

ある人にとっては、国際協力の活動自体が生きがいのような。国際協力は、自分の能力を試す、伸ばす、活かすところになっている。

- 国際協力に取り組んだことで、視野が広がった。また、家族との時間を大切にする、というエチオピアの文化を学んだ。これは、日本に持って帰りたい、一番大切な考え方。
- エチオピアのためになにかできてきているのか、その効果は実のところわからない。ただ、自分の経験として、ここで学んだことを、日本に持って帰って、伝えていきたい。

ある人にとっては、国際協力の活動がその人の知識や経験を養っている。その知識・経験の蓄積は、世界観や創造力を培い、これからの人生を豊かにしてくれるだろう。さらに伝えていくことで、まわりの人も豊かに。「日本に持って帰りたい」という言葉は、日本での発展を期待させてくれる。

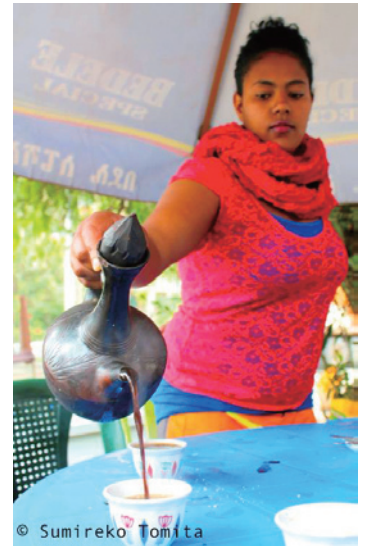
- エチオピアで活動するにあたって、現地の多くの人に助けられている。国際協力「している」というより、国際協力「されている」方かもしれない。日本での活動と同じように、自分ができる精一杯のことをしているだけなのに、それを「国際協力」と言えるだろうか。

ある人にとっては、国際協力の活動は特別なものではなく、また、一方的にしているものでもなかった。

ここで、かの有名なニュートンが発見した運動の法則を思い出した。「作用・反作用の法則」。力というものは必ず対になって作用し、引っ張ると引っ張り返され、押すと押し返される。国際協力も「力」だから、もしかすると、協力したのと同じ大きさの協力が返ってきているのではないか、互いに協力の力を及ぼし合っているのではないか、と考えた。

国際協力することの目的や意義は人によってちがうものの、すべての人が国際協力の活動に誇りと情熱を持って取り組み、本人(ジブン)がHAPPYと感じたり、他人(ヒト)のためのHAPPYを作り出したりしていた。国際協力にも、作用・反作用の法則が成り立つのであれば、エチオピアと日本は同じだけ互いに国際協力していることになる。と言うのはオーバーかもしれないが、日本の国際協力は日本とエチオピアのお互いのHAPPYになっている、と確信した。

そこで、改めて「日本×国際協力=エチオピア×HAPPY」は正しいか?と考えた。これは変えなくてはならない。そも



© Sumireko Tomita

A cup of coffee in Ethiopian style

そも方程式で表すほど簡単なものではないが、敢えて書いたら、

**国際協力 × (日本+エチオピア) = (日本+エチオピア) × HAPPY!!!**

国際協力は「相手国のため」と思うかもしれないが、「自国のため」でもある。お互いがHAPPYになり、HAPPYを共感する姿。それを「協力」して実現していくのが、国際協力の活動なのだと思う。



A cup of coffee in a fancy cafe

### ●日本とエチオピアのコラボレーション

JICA : Japan International Cooperation Agencyは「協力」を「cooperation」で表現している。国際協力のスタイルも時代とともに変わってきた。現在、日本の国際協力には大きく分けて3種類、有償資金協力、無償資金協力、技術協力がある。有償資金協力は、文字通り「カネ」を与えることで協力することなのだが、エチオピアに対する協力は主に無償資金協力と技術協力である。つまり、「モノ」や「ヒト」を与える協力である。今回の視察先である「国道一号線アワシユ橋架け替え計画」は無償資金協力（モノの供与）だが、単純に橋を与えるのではなく、エチオピアの自助努力を重視している。そのため、日本のコンサルタント技術者と、エチオピアの現地の人々が、ひとつの橋を共に作っているのだ。その他、技術協力（ヒトの供与）では、専門家や青年海外協力隊・シニア海外ボランティアを派遣し、組織や制度をエチオピアの人々と共に作り上げている。このように、日本の国際協力は、ひとつのプロジェクトに対し、日本とエチオピアの「ヒト」が関わり、共に作り上げていくスタイルである。日本人気質が得意とする、地道で長期的な協力である。今後、これが日本の国際協力の主なスタイルになれば、「協力」を「collaboration/コラボレーション」と表現してもいいかもしれない。表現方法で国際協力に対するイメージも変わるものだ。日本とエチオピアのコラボレーション。なにかワクワクするものができそうだ。国際協力のスタイルや表現も、時代に合わせて変えていく必要があるだろう。

### ●きれいで おしゃれな エチオピア

「エチオピア」と聞いて、どんな街の様子を思い浮かべたか？日本から見たエチオピアはアフリカのひとつの国でしかなかった。空気や水はきれいか、病気や物乞いなどの心配ばかりしていた。しかし、実際に訪れると「きれいでおしゃれなエチオピア」がたくさんあった。

バラの輸出が多いエチオピア。ホテルのラウンジには、きれいなバラのアートが飾られている。スタイリッシュなレストランでは、オープンキッチンで最高に美味しいハンバーガーとコーヒーが提供される。店内の家具や電気、飾られた雑貨はどれもおしゃれ。また別のレストランでは自家製野菜を使い、安心して安全なフランス料理がフルコースで食べられる。掛けられた絵画はエチオピアの芸術品。不思議な魅力を感じる。そして、コーヒー豆発祥の地とも呼ばれるエチオピアでは、いろいろなスタイルのコーヒーを楽しむことができる。エチオピア人はみんなコーヒーが大好き。家庭では、毎日1時間かけてコーヒーを入れる。エチオピア文化のひとつ、コーヒーセレモニーというもの。街では、おしゃれなカフェやコーヒーショップが立ち並び、店内はコーヒーのいい香りが充満している。心地よい音楽が流れる中、訪れる人は、パンやドーナツ、ケーキなどのスイーツとほろ苦いコーヒーをオーダーし、ゆっくりと会話や読書を楽しんでいる。さすがコーヒー豆の本場、エチオピア。家庭でも、街でも、丁寧に入れられた一杯の味わいは格別だろう。



Ethiopian Sunset

このように、きれいでおしゃれなエチオピアをたくさん見つけ、エチオピアに対するイメージは大きく変わった。最後まで読んでいただいたあなたにも、過去の報道によるイメージを忘れ、「今」を伝える情報から、エチオピアを改めて想像してもらいたい。そして、花屋の前でバラを見たとき、カフェでエチオピア産のコーヒーを飲むとき、エチオピアを思い描いてみてほしい。きっとそこには、あなたが今まで想像していた国とはちがった「きれいで おしゃれな エチオピア」があるはず。